

# 平成 29 年度 丹波地域大学連携フォーラム

## 学生の地域貢献活動の魅力

—学生から見た地域、地域から見た学生—

## 報告書

平成29年12月17日（日）13:00～17:45

篠山市立丹南健康福祉センター（篠山市網掛301）

主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）



## はじめに

丹波地域では、現在、関西大学、関西学院大学、神戸大学の3つの大学が活動拠点を確保し、各地域の課題を踏まえたテーマのもとに、学生が中心となって地域を活性化しようとする取り組みを展開されています。また、大学での授業やゼミ活動をきっかけとして自主的に地域と連携して活動を実践する学生グループも多数います。今年度も、丹波県民局が実施する「学生等による地域貢献活動推進事業」に採択された8団体をはじめとして、丹波地域の各地で地域と連携した様々な活動が展開されています。

このような状況を踏まえ、丹波地域で活動する学生グループの交流を通じて団体間のネットワークの形成を図り、それぞれの活動で生じた課題解決とともに、活動を終えた後も丹波地域との関わりを持ち続けてもらうことを期待して、「学生の地域貢献活動の魅力ー学生から見た地域、地域から見た学生ー」をテーマに、「平成29年度丹波地域大学連携フォーラム」を篠山市立丹南健康福祉センターで開催しました。

フォーラムの冒頭では、大学生時代に丹波地域で地域活動を行い現在も丹波地域で活躍中のOBの方より、「学生時の地域活動を通じて得たこと」をテーマに、自身の経験から感じていることについて、学生達にアドバイスをいただきました。このなかで、自身の学生活動の際にいてくれると助かると思っていた地域と学生の繋ぎ役が今の「しごと」であり、地域に興味を持っている学生も貴重な一資源ではないかとのお話がありました。

続いて、丹波で活動している8つの学生団体から、「地域課題である放置竹林の整備と間伐竹の活用」、「地域の農作物の認知度向上と商品化への取組」、「留学生との農業体験や交流による国際的な視点を活かした地域の魅力発信」、「シカを観光資源として活用する獣害対策」、「学生の意見を示し協働を目指す農業ボランティア」、「学生視点から見た地域の魅力をPRする情報誌や、ライトアップイベントによる地域振興」、「地元の中高校生と連携したイベントへの参加」などが報告されました。地域の方からは、協働と継続が大きなキーワードになる、地域の活性化に若い学生のアイデアはありがたくこれからも連携を大切にしたい、地域の高齢化が進む中で学生による情報発信やイベント協力は非常に嬉しいなど、学生の活動を応援するコメントをいただきました。

その後のグループ討議では、「地域貢献活動をより魅力的にするには」をテーマに、8つの学生団体の活動報告で参考になったことについて、学生・地域住民・行政関係者で討議・発表を行い、それぞれが感じた内容を参加者全員で共有しました。

今回のフォーラムを契機として、大学や学生たちの連携のネットワークがさらに広がり、大学卒業後も丹波地域に関わりを持ち続けていただくことで、今後も地域との交流が深まり丹波地域全体がより一層活性化していくことを願っています。

最後に、このフォーラムの開催にあたり多大なご協力をいただきました各大学や地域の関係者の方々、また、当日ご参加いただきました多くの方々に、改めて深く御礼を申し上げます。



## 目 次

I. 開催状況の写真	1
II. 開催概要	5
III. フォーラム	8
1. 開会挨拶	8
2. 主催者挨拶	10
3. 講演『学生時の地域活動を通じて得たこと』（地域活動OB） 神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ プログラムマネジャー 橋田 薫	12
4. 司会者挨拶 神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史	29
5. 学生からの地域貢献活動報告	30
(1) Bamboo Bus Stop Project	30
(2) ミライの輪	35
(3) AGLOC	39
(4) おくものがたり	43
(5) 神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会	47
(6) 地域密着型サークル にしき恋	53
(7) Wake UP! 柏原	57
(8) さじっこ倶楽部	62
6. グループ討議『地域貢献活動をより魅力的にするためには』	67
7. 地域と連携して開発を進めているお菓子の紹介	73
8. 講評	76
IV. 参考資料	80
1. 活動団体概要	81
2. プログラム	97
3. 当日参加者アンケート	101
4. これまでの学生等による地域貢献活動推進事業採択団体一覧	112
5. 実行委員会	114



## I. 開催状況の写真

### 1 開会挨拶（実行委員会会長）



関西大学佐治スタジオ 研究員 出町 慎

### 2 主催者挨拶



丹波県民局 局長 福本 豊

### 3 講演『学生時の地域活動を通じて得たこと』（地域活動OB）



神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ プログラムマネジャー 橋田 薫

### 4 司会者挨拶



神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史

## 5 学生からの地域貢献活動報告



Bamboo Bus Stop Project (京都大学)



ミライの輪 (神戸親和女子大学)



AGLOC (神戸大学)



おくものがたり (神戸大学)



神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会 (神戸山手大学)



地域密着型サークル にしき恋 (神戸大学)





Wake UP! 柏原（関西学院大学）



さじっこ倶楽部（関西大学）

## 6. グループ討議『地域貢献活動をより魅力的にするためには』



班ごとに話し合いをしている様子



班ごとに話し合いをしている様子



班での話し合いの内容を全体で共有している様子



班での話し合いの内容を全体で共有している様子

## 7. 地域と連携して開発を進めているお菓子の紹介



趣旨を説明している様子



学生の説明を聞きながら参加者が試食をしている様子



アンケート結果発表の様子

## Ⅱ. 開催概要

丹波地域では、様々な大学が地域に入り、フィールドワークや農作業の手伝いなど、各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで学生たちが独自に地域貢献活動に取り組んでいます。

これらの学生が参加するフォーラムを下記のとおり開催し、それぞれの活動内容について相互に理解を深めるとともに、参加者全員で意見交換し、これからの活動の方向性、丹波と自分の未来について展望しました。

### 記

- 1 日 時：平成 29 年 12 月 17 日（日）13:00～17:45
- 2 場 所：篠山市立丹南健康福祉センター
- 3 テー マ：「学生の地域貢献活動の魅力ー学生から見た地域、地域から見た学生ー」
- 4 参加者数：76 名（大学生、大学教員、学生と活動する地域の方 他）

大学生（ 京都大、神戸親和女子大、神戸大、神戸山手大、 関西学院大、関西大、岡山大 ）	36 人
大学教員、教育関係者	8 人
学生と活動する地域の方、丹波地域の住民の方、丹波地域の企業の方等	17 人
県、市等行政職員	15 人
計	76 人

### 5 内 容：

#### (1) 学生時の地域活動を通じて得たこと（地域活動〇Ｂ）

- ・講師：神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ プログラムマネージャー 橋田 薫 先生

#### (2) 学生からの地域貢献活動報告と質疑応答

○司会：神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史 先生

- ・ Bamboo Bus Stop Project（京都大学）
- ・ミライの輪（神戸親和女子大学）
- ・AGLOC（神戸大学）
- ・おくものがたり（神戸大学）
- ・神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会（神戸山手大学）
- ・地域密着型サークル にしき恋（神戸大学）
- ・Wake UP! 柏原（関西学院大学）
- ・さじっこ倶楽部（関西大学）

#### (3) グループ討議（地域貢献活動をより魅力的にするためには）

○司会：神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ 学術研究員 衛藤 彬史 先生

### 6 主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

（関西学院大学、神戸大学、関西大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局）

### 7 事 務 局：兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課

## 8 報告概要：

### 《活動報告1》 Bamboo Bus Stop Project

篠山市福住地区で、放置竹林を間伐した竹を使ってバス停を作るプロジェクトを進めている。2016年12月に行ったワークショップでの「竹のバス停を作れば観光客が増えると思う」という東雲高校の生徒の一言から始まり、同高校や地域と協力して取り組んでいる。これまでに市及びまちなみ保存会にデザインを提案し、試作品を福住祭や大学祭で展示した。福住地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定されており、デザインの制限がある。デザインを含め地域の伝統的なものを取り入れた。今後はワークショップ形式で竹のベンチ・壁等制作し、プロジェクトを進めていきたいと考えている。

### 《活動報告2》 ミライの輪

丹波市山南町久下地区で、地域の農作物の認知度向上プロジェクトを進めている。地域の生産物の商品化にあたり、予想される課題や、生産者と学生の役割分担など協議し、秋に黒枝豆の収穫とテスト発送を行った。昨年度は地域の方々との交流を深める活動が主であったが、今年度は交流の中で見つけた課題を解決する活動を主としてすすめた。今後は、今年取り組んだ試験販売を地道に継続し発展させたい。また、今年はあまりできていない地域の方々との定期的な交流、イベントへの参加等も行いたいと考えている。

### 《活動報告3》 A G L O C

篠山市岡野地区で、【地域と世界を繋ぐ】という理念を掲げ留学生と活動している。設立から1年半で、22ヶ国81人の留学生の参加があった。「地域から世界へ、世界から地域へ、地域と世界を双方向に繋ぐ」活動として、特産品“ChoKobe”“ヤマノイモパンケーキ”の開発・販売等に留学生の意見を活用している。留学生に地域の魅力等を知ってもらうWelcome Campや、地域の小学生と留学生による異文化交流イベントを実施した。農業ボランティアについても参加した留学生により外国語で世界に情報を発信している。アジア農学系学生会議へ参加するなど、様々な活動を行っている。

### 《活動報告4》 おくものがたり

篠山市大苧地区で、「資源利活用」「地域交流」「農業振興」の3つの柱を掲げ活動している。6月にホテル観賞交流会を実施し、8月は地域の夏祭りの運営に協力した。9月には廃校となった旧大苧小学校において地元小学生の通学合宿を実施した。11月の大苧文化祭では留学の経験を活かし留学先の国に関するクイズ等を行った。12月はクリスマス会に参加協力している。また、繁忙期には、農業ボランティアも実施した。今後は、雪合戦、そば打ち、味噌作り、運動会等のイベントの企画・参加等を行いたいと考えている。

### 《活動報告5》 神戸山手大学歴史文化ツーリズム研究会

篠山市福住地区で、「獣害対策の支援」「鹿を観光資源として活用するイベントの実施」「祭礼参加による地域活性化への貢献」を目的として事業を行っている。今年度は、交流会を5回開催し、祭りに3回参加、イベントを3回実施した。10月には福住の歴史的町並み歩きのイベントを実施し参加者を案内した。大学祭や地域の祭りでは、シカ焼きそばやシカ焼肉丼を出店した。12月には獣害問題を周知するためのイベント「シカフェス」を実施し、鹿にまつわる講演やクイズ、鹿肉の料理や角の加工体験を行った。今後は交流会を2回開き、次年度の課題について意見交換を行いたいと考えている。

#### 《活動報告6》 地域密着型サークル にしき恋

篠山市西紀南地区で、農業ボランティア、耕作放棄地での農作物の生産・販売、地域の方々との交流の3つを基本的な活動としながら、様々な取り組みを行っている。活動を始めて5年間で延べ5,000人の学生が地域を訪れた。耕作放棄地では黒大豆や各種野菜を栽培しマルシェや大学内で販売した。また、地元の小中学生との交流や、祭り等地域行事への参加等も行っている。今年度は東京で開催された「食と農林漁業大学生アワード」にて活動を発表し地域外にもアピールを行った。2月には地域の方々に年度末の報告をし、結果を踏まえ議論・提案を行いたい。これからも地域密着の理念を忘れずに長く幅広い活動を目指したいと考えている。

#### 《活動報告7》 Wake UP! 柏原

丹波市柏原町柏原地区で、地域の魅力を発信するための情報誌の作成及びライトアップイベントを行っている。情報誌では、柏原の店舗、お土産、歴史、イベント等を大学生の若い目線で紹介し、柏原の魅力を伝えている。また10月に開催したライトアップイベント「かいばらいと2017」では、昨年度に開催した「かいばらいと2016」での経験を踏まえ、キャンドルの並べ方やライトアップの演色等を工夫し、またプロジェクションマッピングの同日開催もあり、好評であった。12月には「かいばらいとクリスマス」を企画している。1月に柏原で開催される活動報告会では、イベントの際に実施したアンケート結果等についても報告したいと考えている。

#### 《活動報告8》 さじっこ倶楽部

丹波市青垣町佐治地区において、イベントや中高生との交流等、年間を通じて丹波に関わり、地域と協働して地域活性化を実践している。7月の「あおがき灯りの夕べ」では、中高生と連携し子ども屋台の企画から行灯の設計・施工を行い、当日の準備等まで広く関わった。9月には地区の空き家を使った「空き家キャンプ」に参加し、空き家の活用を考えた。また地区の休耕地を学生が主体となって活用するプロジェクトでは、大きな移動式キッチン制作に関わりイベントで活用した。地域の祭りやイベント、地域交流ワークショップにも関わっている。